

パルシック 2011年度活動方針	1
東ティモール	
1. コーヒー生産者支援事業	2
2. 農村女性による経済活動支援	4
3. 2012年度 10周年に向けての準備	4
スリランカ	
1. ジャフナ県漁村女性による干物づくり	5
2. ジャフナ県帰還民の生活再建支援	6
3. 南部デニヤヤにおける紅茶の有機栽培支援	6
マレーシア	
1. 沿岸漁民による水産資源保護	7
緊急：東北地震被災者支援事業	7
フェアトレード	8
1. コーヒー	
2. 紅茶	
3. ハーブティ	
講座	8
1. 美味しいコーヒーの物語	
2. 香る紅茶の物語	
ツアー	9
1. スリランカ	
2. 東ティモール	
3. マレーシア	
広報	9
1. ホームページ	
2. メール発信	
3. 民際協力ニュース	

パルシック 2011年度活動方針

パルシックは、発足以来、東ティモールやスリランカの農・漁村の女性たち、漁業者やコーヒー生産者、内戦や災害の被災者たちが、干物、ソラメチップス、コーヒー加工などの仕事を通じて、地域の諸問題や貧困に挑戦することを応援してきました。そしてパルシック自身がそのコーヒーや紅茶をフェアトレードとして日本の市場に届けてきました。2011年度は、この社会企業としての専門性や能力を高め、パルシックの個性を鮮明にし、定着した活動へと発展させます。

東ティモール

- コーヒー生産者支援事業
- 農村女性の起業支援

スリランカ

- ジャフナ漁村女性による干物づくり
- ジャフナ帰還難民の生活再建支援
- 南部デニヤヤの小規模農民の紅茶有機栽培支援／ウバ紅茶園住民支援

社会企業としての
マーケティング/マネージメント力
をつける

人物
情報) の循環

- 沿岸漁民による環境保全活動と持続可能な漁業支援

マレーシア

- フェアトレード事業
- ツアー／講座企画
- 広報：民際協力ニュース、HP

東京事務局

新しい働き方
フェアな交易
信頼の形成

老若男女の地域住民が社会の主人公として、自分たちの生き方を決め、豊かな暮らしを築く世界をめざして、市場の価格だけを判断基準にするのではない、人間的な交流と信用に基づく交易の輪をひろげ、連帯経済のネットワークを形成する。

東ティモールの状況と課題

東ティモールは2012年に独立10周年を迎えます。何もない中で、それでも独立を選んだ東ティモールの人びとでしたが、若者たちの失業と貧困を背景に2006年4-5月に国内で暴動という事態を迎えました。これを契機に2007年8月8日、与党フレティリンが下野し、代わって成立したシャナナ・グスマン連立政権でしたが、2008年2月11日、ラモス・オルタ大統領やグスマン首相が襲撃され、再び非常事態宣言を迎えました。その後、政権は治安維持をオーストラリア・マレーシア・ニュージーランド・ポルトガルによる国際軍と国連東ティモール統合ミッション（UNMIT）に依存しながら、石油天然ガス収入を政府予算に組み込み、公務員数を増やし、かなりバラマキ的な歳出を行なうことで経済成長をけん引しようとしてきました。政府歳出額はこの10年間でおよそ20倍になっています。実態経済の成長を伴わない拡大は首都デイリの道路を走る新車を急増させましたが、農村や都市の貧困層の生活は変わらず、貧富の格差の拡大をもたらしています。パルシックとしては農村の人びとの生活改善を促すような支援を継続したいと考えています。

東ティモール

1. コーヒー生産者支援事業

東ティモールの独立10周年は同時にパルシックのコーヒー生産者支援事業10周年を意味します。2011年はその10年間の活動の仕上げの年であり、新たな10年間のスタートの年です。その一環として、2011年をもって東ティモール・マウベシ郡のコーヒー生産者協同組合（ココマウ）との関係を改めて、フェアトレードのパートナーとしての関係を築くことをめざします。（この事業はJICA草の根協力事業パートナー型の支援を得て実施します。）



1) コカマウの自立

東ティモールでコーヒー生産者の支援事業を開始して10年目を迎えます。マウベシコーヒー生産者協同組合（コカマウ）は、コーヒーの加工における一定の水準の維持、組織運営のための会議の定期化、資金管理などを、ある程度できるようになりましたが、組合員の利益のために尽くすという協同組合の意味など、まだまだ理解が不足していることも多くあります。10年間の仕上げの年として2011年度は組合員にその教育を行ないます。とくに集落単位での活動を重視します。

村名	集落名	2010年		2011年(予定)	
		組合員	準組合員	組合員	準組合員
アイトウト村	クロロ	28	14	28	14
	マウレフォ	24	8	22	8
	ベトゥララ	14		14	
マウベシ村	レボテロ	12		12	
マウライ村	リタ	28		28	
	ルムルリ	33	21	33	21
	ハトゥカデ	27	6	27	6
	リティマ	19		19	
マネトゥ村	ルスラウ	10		10	
	ハヒタリ	14		14	
エディ村	ロビボ	13		13	
	タラレ			5	
小計		222	49	227	49
組合員・準組合員合計		271		276	

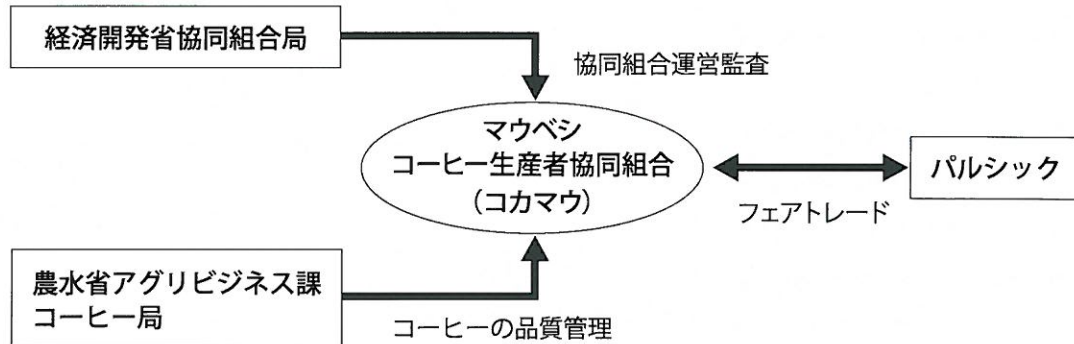
2) サココや他のコーヒー生産者との提携

東ティモールの下からの発展を支えていくために、パルシクは引き続き、エルメラ県のサココ青年グループを支援するとともに、コカマウを含む、こうした諸生産者グループの連携を強めます。



3) 東ティモール政府との協力

コーヒー生産者の組織力やコーヒーの品質管理力を強めるために政府機関と下図のように協力します。



東ティモール

2. 農村女性による経済活動支援

2009年の11月から始めた農村女性の食品加工支援事業も2011年をもってひとつの区切りとします。そのために、(1) リーダー育成、(2) マーケティング研修、(3) マネージメント研修の3つを強化して、女性たち自身による企業力、運営力を育成します。このことは、パルシックとしては、東ティモールに限らず、今後の事業の中心となる組織としての力量やマニュアルの蓄積にもなります。

この事業の経験を生かして、2012年度以降、東ティモール各地で女性の事業支援

を行ないます。(この事業はJICA草の根協力事業フォローアップ型の支援を得て実施します。)



東ティモール

3. 2012年度10周年に向けての準備

2012年5月に、パルシックとしてコーヒー生産者支援事業開始からの10周年を祝います。同時に2012年は、新しい10か年の事業の開始年でもあります。前期の3年間の食品加工事業の経験をもとにして東ティモール各地の農村女性の起業支援を行なおうと考えています。

スリランカの状況と課題

2009年5月に26年間続いた内戦が暴力的な終焉を迎えた後、スリランカは新しい状況を迎えています。戦争に勝利したラジャパクサ大統領は2010年1月の大統領選挙に圧勝し、今後6年間、大統領一家が政権を運営することになると考えられます。国際社会からの人権問題などの批判に応えるために、政府は北部の復興開発に力をそそいでいますが、それ自体が新たな利権構造を生み出すようになっています。他方で、パルシックが2004年以来活動現場としてきたジャフナでは、若い人たちが将来に希望をもてず、一般犯罪が増えるという社会の荒廃が起っています。私たちは引き続き、ジャフナで内戦被災者の生活を支えるとともにスリランカに多文化共生社会がもたらされるように多角的な支援を続けます。



スリランカ

1. ジャフナ県漁村女性による干物づくり

内戦の終わったジャフナで、戦争により寡婦となった女性たちを中心として干物づくりを始め、2年目を迎えます。初年度に4つの村で研修を行ない、グループの核が形成されました。これをうけて、2年目の2011年は、第一に干物の生産を軌道に乗せて、第二にグループごとの加工場をつくり、第三に商品名、価格などを決めて実際の営業活動を開始します。同時に、この女性たちが、コロomboなどの大都市に自ら営業に出かける機会をつくり、多様な交流を促します。（この事業はJICA草の根協力事業パートナー型の支援を得て実施します。）

干物事業の流れ



スリランカ

2. ジャフナ県帰還民の生活再建支援

内戦の過程で、家や漁具、漁船を失ったジャフナの難民たちが帰還後、生活を再建できるように、漁具や漁船の支援をしてきました。2011年もジャフナ県東部海岸のマルダンガーニ地方に2010年後半に帰還した人びと、軍事警戒地域であったため最近まで帰還できなかった人びとへの支援を続

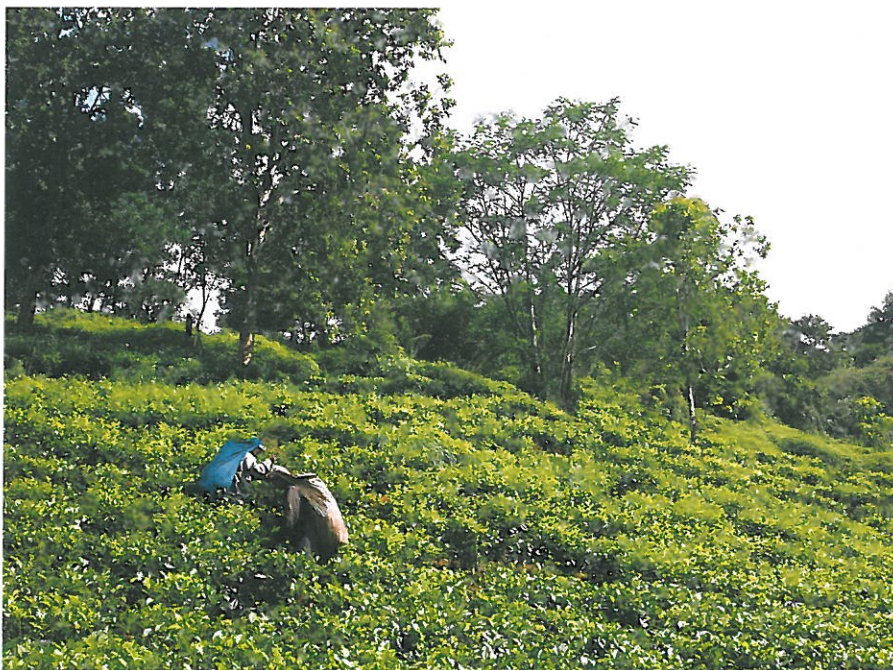
けます。そして、「内戦後のスリランカ」が、多文化共生社会を迎えるように支援し、見守っていきます。(この事業はジャパン・プラットフォームの助成を得て実施します。)



スリランカ

3. 南部デニヤヤにおける紅茶の有機栽培支援

スリランカの紅茶の60パーセントは南部の低地帯で生産されています。この地方の昔の王朝の名前をとってルフナ茶と呼ばれる紅茶です。デニヤヤはそのなかでも比較的高地に属し、質の良い紅茶が生産されています。ここではヌワラエリヤやウバと異なり、小農民が紅茶を生産しています。一般にスリランカの紅茶の生産には多量の殺虫剤、除草剤、化学肥料が用いられます。野菜栽培と併せて、小規模に紅茶を生産している農民たちは有機栽培への転換を願っていますが、その技術も財政的な余裕もありません。パルシックは2011年、この農民たちともに、有機栽培紅茶の生産に取り組みます。(この事業は国際ボランティア貯金の助成を得て実施します。)



マレーシアの状況と課題

マレーシアは、経済危機からも比較的スムーズに脱し、マハティールからの政権移行もスムーズに行なわれて、安定した状態にあると言えます。ですから支援の必要はないというのが一般的な理解と言えましょう。しかし、良く観察すると急激な経済成長は、著しい環境破壊と、自然環境に依拠して生活してきた漁民たちや先住民たちの生活破壊をもたらしています。そして日本の60～70年代の負の経験が大変に役に立つ状況といえます。

マレーシア

沿岸漁民による水産資源保護

マレーシア、ペナン島の沿岸漁民たちは、開発とともに枯渇してきた水産資源の復活と美しい海の回復をめざして、マングローブの植林、有名なマレーシア海老の稚えびの放流などに取り組んでいます。沿岸水産資源の枯渇はアジア、そして世界的に深刻な問題ですが、漁民自身が、取り組んでいるケースは稀です。パルシックは、この沿岸漁民の活動を応援します。パルシックにとって、この事業は、目に見える人と人との交流を通じて、環境保全と生業支援に取り組むものです。定期的なツアーの開催によって、多くの日本の市民がマレーシアの漁民とともにマングローブ植林に取り組むことをめざします。



緊急：東北地震被災者支援

2011年3月11日、マグニチュード9.0の地震が宮城県沖で発生し、その後、広範囲の津波が岩手県・宮城県の海岸線を襲いました。さらに福島原発の6基の原子炉が故障、放射能汚染が広範囲に及びました。この日、パルシックの理事、事務局の主力は海外出張中でもあり、迅速な対応ができませんでした。けれど海外での緊急時には対応しているのに、国内の人びとに起こった事態に何もしていないことはできないと考え、支援活動を開始することにしました。車両、バイクからなる救援隊を派遣し、とくに交通の便の悪いところ、復旧から取り残されているところのニーズに応える活動を4～5月の2ヶ月間実施します。しかし今回の震災は、日本のエネルギーや農業、水産業の今後に多くの問題を投げかけており、パルシックとしても長期的な関わり方を検討します。

(この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆様からの寄付金によって実施します。)

1. フェアトレード

2011年も次の三つの商品を通じて日本社会のなかにフェアトレードと生産者支援の輪を広げます。またパルシック事務局自身が、その過程で、商品とその業界について学び、社会的な営業力を身に付けていきます。引き続き営業ボランティアの活動も発展させ、フェアトレード事業に多くの方に参加していただけるようにします。

1. コーヒー

2011年の初めからコーヒー価格の高騰は大きな問題となっています。価格の乱高下に抗して、生産者にとっても消費者にとっても安定した価格で、美味しい東ティモールコーヒーを提供することをめざします。販売量としては、アラビカ種を30トン、ロブスタ種を30トンが今年の実目標です。

2. 紅茶

今年もウバのグリーンフィールド茶園が有機栽培で生産したまろやかな、飽きのこない味わいのウバ紅茶を多くの方に楽しんでいただけるように、ホームページなどを工夫します。

3. ハーブティ

2011年にはハーブティの販売を開始できる予定です。アメリカではアンチエイジング薬として人気があり、東ティモールや他のアジアの国でも体調を良くするといわれるツボクサにミントを混ぜて飲みやすくしたもの、アボガドの葉、バジルの花、ライムの葉などを準備しています。

2. 講座

姉妹団体のPARC自由学校の一環として、コーヒーや紅茶をもっとよく知るための講座を次のように開きます。

1. 「おいしいコーヒーの物語——フェアトレードから考える」

東ティモールだけではなくメキシコやアフリカの産地の人びとの暮らし、美味しいコーヒーの焙煎の仕方、そして価格の決定を含むコーヒーをめぐる経済などを学ぶ講座です。

2. 「香る紅茶の物語」

紅茶だけではなく茶のルーツ、中国茶まで含めて、栽培から生産、美味しい紅茶の入れ方までを学ぶ講座です。

3. ツアー

2010年に引き続き、交流としての旅に多くの方に参加していただく努力をします。

1. スリランカ：美味しい紅茶の故郷を訪ねる旅（9月）

パルシックの「ウバ紅茶」の産地、スリランカの歴史、風土を、パルシック理事でありスリランカ専門家である中村尚司を案内人に、じっくりと学ぶ旅です。「インド洋の真珠」と呼ばれる小さな島に凝縮された宗教や文化が織りなす諸相、そして、現代のスリランカ社会について、旅を通して考えます。

2. 東ティモール：コーヒー生産者を訪ねる旅（8月）

パルシックは2002年から東ティモールアイナロ県マウベシ郡のコーヒー生産者支援事業を実施しています。この旅では、東ティモールのコーヒー産地を訪れ、実際にコーヒー生産を手伝います。「誰が、どこで、どのようにコーヒーを作っているのか」、その生産の現場を見ていただく旅です。

3. マレーシア：漁民とともにマングローブを植える旅（12月）

中国系、インド系、マレー系住民という多民族によって構成されるマレーシア、ペナンはリゾート地としても有名ですが、沿岸開発や排水による水質汚染が進んでおり、環境保全の重要性も高まっています。マングローブ植林、手長エビの稚魚放流などの活動に取り組んでいる沿岸漁民のグループを訪ね、マングローブ植林をともに行ないます。

4. 広報

2011年、東京事務局としては、広報活動を強化していく計画です。

1. ホームページ

2011年度5月に、ホームページの思い切った改革を行ないます。そして多くの人に、パルシックのことを知ってもらい、様々なレベルで参加していただくことができるように現地情報やコーヒー、紅茶などの商品に関する情報を提供していきます。このホームページのリニューアルに合わせて、コーヒー紅茶のサンプル配布キャンペーンを計画しています。

2. メール発信

ホームページと連動したメールニュースをしっかりと発信します。そして多くの方々とつながっていくためにツイッターでも直接現地から情報を発信していきます。

3. 国際協力ニュース

引き続き年に2回の発行ですが、多くの方に東ティモールやスリランカの現状をお伝えする大事なメディアとして継続します。